

清川村札掛で観察されたホンシュウモモンガについて

浜 口 哲 一

Notes on *Pteromys momonga* in Kiyokawa Village, Kanagawa Prefecture.

Tetuichi HAMAGUCHI

はじめに

神奈川県は哺乳類相については、田代道弥、柴田敏隆、小林峯生等各氏の努力によって知見が蓄積され、近年では環境庁、県立自然保護センターによる広域的な分布調査も行われている。しかしこれらの調査はトラップによるネズミ類等の小型の種類と、聞き取りによるタヌキ等より大型の種類に重点が置かれており、中型の種類については情報が少ないきらいがある。特にホンシュウモモンガ(*Pteromys momonga*)については、僅かに柴田(1964)と田代(1971)に計3例が報告されているに過ぎない。

筆者は、このように県内での記録の少ないホンシュウモモンガを、丹沢山地の清川村札掛において観察する機会を得たので、ここに報告する。報告にあたっては、一緒に観察を行った丹沢自然保護協会の自然教室スタッフの皆さんに感謝したい。

観察状況

1985年12月26日、清川村札掛で開催されていた丹沢自然保護協会主催の冬の自然教室において、前年の冬期に架けた巣箱の掃除点検が行われていた。その巣箱の一つを木から下ろしたところ、中から1頭のホンシュウモモンガが現れた。スタッフがそれを捕らえ、室内においてしばらく観察した後、野外に放した。

ホンシュウモモンガが利用していた巣箱は札掛の国民宿舎丹沢ホームのすぐ裏手の落葉広葉樹の地上から約3mの位置に架けられたものであった。付近の植生はモミの自然林であり、標高は約550mである。

この個体は計測は行わなかったが、頭胴長約20cm程度と思われる、上面の色彩は比較的灰色味が強かった。室内に放した時は物陰にうずくまるほか、柱などに登

って短い滑空も行った。ムササビと比較した場合、体の大きさの違いの他、目が相対的に大きいこと、飛膜が狭いこと、尾が体より短く上下に扁平であること等の特徴がよく確かめられた。

札掛からは柴田(1964)も1960年にやはり小鳥の巣箱に入っていた2例を報告しており、ここがホンシュウモモンガの定住地であることがうかがわれる。当地ではムササビの観察例も多く、種間関係にも興味を持たれる。

巣の形態

ホンシュウモモンガの利用していた巣箱は、スギ材で作られたシジュウカラ用の大きさのものである。入口は30×30mm程度の四角い穴が開けてあったが、図のようにかじって拡張されていた。内部には幅1mm以下に細かく裂いたスギの樹皮がいっばいに運びこまれ、断面図に示したような丸い部屋が作られていた。

なおこの巣箱は一時カラ類が利用したようで、底部には藓類が敷かれていた。

巣から検出されたノミ

巣箱を観察していたところ、巣材の間等からノミ類が発見され、12匹を採集した。

阪口浩平氏の日本の隠翅目のモノグラフ(SAKAGUCHI 1962)には、ホンシュウモモンガに寄生する種類として3種類のノミが記載されている。今回発見されたものは、前胸部のみに櫛状の棘が認められ、そのうち最も普通とされる *Ceratophyllidae* ナガノミ科の *Monopsyllus argus* ムササビナガノミと特徴が一致した。

ノミは液浸標本として平塚市博物館に保存してあるので(登録番号 HCM-52-2123)、将来専門家の同定を仰ぐ予定である。

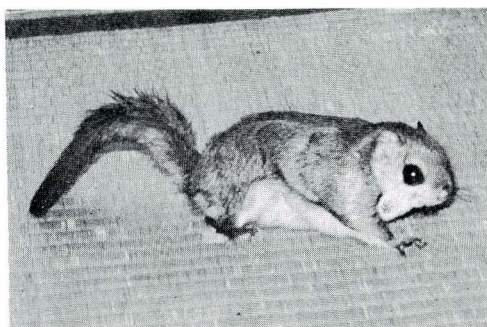


図1 室内に放したホンシュウモモンガ

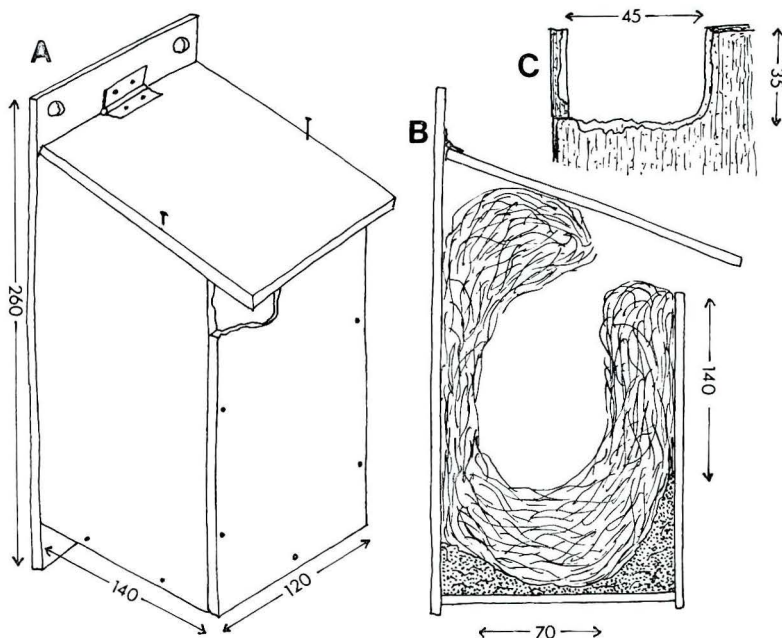


図2 ホンシュウモモンガが利用していた巣箱 (A: 全形 B: 断面図 C: 入口)

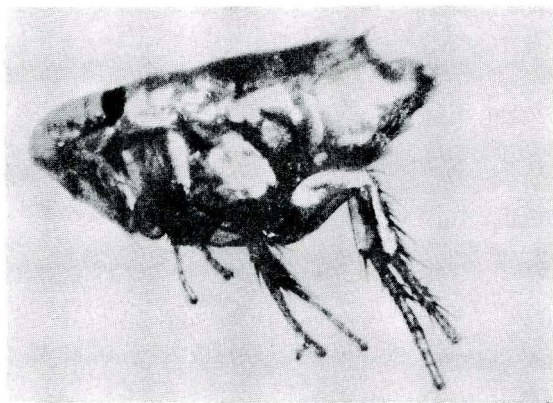


図3 巣から検出されたノミ (*Monopsyllus argus*?)

おわりに

山地に架けられた巣箱は鳥類だけでなく、小型の哺乳類によってもよく利用される。ここには実際に利用個体が観察された例を報告したが、札掛では他にも巣材だけが発見される場合が少なくない。そうした例を丹念に記録しておくことも自然的に重要な情報になるであろう。また巣箱の架設や掃除にあたっても、時期や方法の点で哺乳類への影響も配慮する必要があることを指摘しておきたい。

文 献

- 柴田敏隆 1964 丹沢山塊の哺乳動物. 丹沢大山学術調査報告書, 338-343. 神奈川県.
 田代道弥 1971 箱根地方産哺乳類目録. 箱根の樹木と自然, 217-221. 箱根樹木園.
 K. SAKAGUCHI 1962 A Monograph of the Siphonaptera of Japan, Osaka. 256pp. 42pls.

(平塚市博物館)